

近年日本におけるスポーツに対する意欲関心が減少傾向にあることが問題視されている。それは自分自身で体を動かす「実施」のみならず、「観戦」における人気低迷も含まれる。そういった中でスポーツドキュメンタリーは、視聴者が映像を通して選手に詳しく触れることができる方法として広く愛好されているコンテンツである。

本研究では、スポーツの振興にも役立つような「優れたスポーツドキュメンタリー」のあり方を明らかにするため、対象をサッカーに絞り、『MESSI メッシ 頂点への軌跡』（2014年）と『RONALDO/ロナウド』（2015年）の2作品を対象とした。研究方法は、先行研究から「良いドキュメンタリー」の要素や構成をリストアップし、2作品にはこうした要素や構成がどのように組み込まれているのかを分析・比較した。

検討の結果『MESSI メッシ 頂点への軌跡』と『RONALDO/ロナウド』では、後者において「良いドキュメンタリー」の要素や構成が確認することができた。

また、『RONALDO/ロナウド』では専門的な知識を必要とする場面はほとんどなく「家族」という視聴者にも親しみやすいテーマを設定しており、映画のテンポが流れるように構成され視聴者が飽きない工夫が組み込まれていた。スポーツ離れしている人がこの映画を視聴したときにロナウドという人物像を簡単に知ることができ、「憧れ」を抱きやすい作品となることがわかった。『MESSI メッシ 頂点への軌跡』と『RONALDO/ロナウド』の2作品では『RONALDO/ロナウド』の方が優れているが、前者にも一定の要素や構成は含まれており、「良いドキュメンタリー」として一定の役割を果たしていると考えられる。